



よく学び力をつける子 友達となかよくできる子 はつらつと体をきたえる子

令和7年度



とよはる

みんな友達 豊かな心 あふれる意欲

<https://schit.net/kasukabe/estovoharu/>

毎日情報更新。ぜひご覧下さい。

豊春小学校

春日部市立豊春小学校

学校だより12月

児童数 515 人

春日部市道順川戸 37-1

令和7年12月1日



サンタクロースが見たこどもたちの一年

校長 今木敏浩

12月に入り、いよいよ一年の締めくくりの時期となりました。街を歩くと、赤い服を着たサンタクロースの絵や飾りを見かけることが多くなります。

実は、私たちがよく知っている“赤い服に白いひげ”のサンタクロースの姿は、20世紀初めのコカ・コーラ社の広告が大きく影響していると言われています。それ以前にもサンタクロースの絵はありましたが、コカ・コーラの広告で描かれた、ふくよかで優しく、親しみやすい姿が世界に広まり、現在のイメージが定着したそうです。

一方、サンタクロースの“起源”をたどると、ドイツを中心にヨーロッパで語り継がれてきた「聖ニコラウス」にたどり着きます。聖ニコラウスは4世紀ごろの司教で、困っている人々にこっそり贈り物を届けたり、子どもたちを大切にしたりしたことで知られています。

また、ヨーロッパの一部では、聖ニコラウスと一緒に「クネヒト・ループレヒト」という、お行儀の悪い子を咎める役割の人物も登場します。良い行いをした子には贈り物を、悪いことをした子には反省を促す——そんな風習が受け継がれてきました。

日本の子どもたちにはあまり馴染みがありませんが、クリスマスにはこうした歴史や文化が背景にあります。

さて、豊春小学校のこどもたちの一年を振り返ると、勉強に真剣に向き合い、友達と協力しながら学校生活を築き、運動会や持久走大会、様々な行事に主体的に取り組む姿がたくさん見られました。思いやりをもって友達に声をかけた子、苦手なことに挑戦し成長した子、そしてクラスのために黙々と働いた子——その一つ一つの姿こそ、サンタクロースが認める“よい行い”です。

今年の豊春小学校のこどもたちは、きっと“お仕置き”ではなく、サンタクロースから温かいプレゼントを受け取ることでしょう。それは物だけでなく、「一年よく頑張ったね」という目に見えないご褒美でもあります。どうぞ、ご家庭でも一年の成長を振り返り、こどもたちにたくさんの励ましの言葉を届けていただければと思います。

寒さが厳しくなる季節ですが、こどもたちの健康と安全をしっかりと守りながら、笑顔で二学期の残りの日々を過ごせるよう努めてまいります。

11月の教育活動より

5年生が音楽会に出場



11月5日(水)に市内音楽会、12日(水)に東部南地区音楽会に、5年生が出場し、練習の成果を十分に発揮しました。心をひとつにした合唱は会場に温かく響き、多くの方から大きな拍手をいただきました。新たな自信につながる、貴重な経験となりました。

土曜公開授業



彩の国教育週間に準じて、11月8日に土曜公開授業を行いました。多くの保護者の皆様にご参観いただきました。全学級で道徳の授業に取り組み、友達との関わりについて考えを深めました。さらに、豊春中の合唱・合奏を全校児童で体育館にて鑑賞し、素晴らしい音楽に触れる時間となりました。

友だちタイムって なぁに？

友だちタイムとは、1年生と6年生、2年生と4年生、3年生と5年生がペアになり、交流活動をする時間のことです。

学期に2回程度活動しています。児童が主体となり、学年・学級単位でどんな遊びをするのかを計画して運営します。

高学年は低学年にあった遊びを考え、低学年は高学年に合わせた遊びをそれぞれ考えています。それらにより、思いやりの心・協力し合う心を育てること、児童の自治活動を促すことを目標としています。

この活動を通して、豊春小の仲が一層深まり、普段とは違った雰囲気の中で、笑顔あふれる時間となっています。

合同で開会式



児童が主体で会を進行

ペアで楽しく活動

